

●学部学科ごとのカリキュラムポリシー

○倉敷芸術科学大学のミッション (社会的使命)	○カリキュラムポリシー (教育課程編成・実施の方針)						
	「専攻科目」と「教養科目」から構成され、それぞれの人材養成を目指したカリキュラム (教育課程) を次の方針に基づいて構築する。						
		1年次	2年次	3年次	4年次		
1. 専門的知識・技能の高い職業人の養成	芸術学部	映像メディア	選択した複数の専門分野でコンテンツ制作の基礎を学び、クリエイターとしてのセンスを磨く。	基礎を踏まえ専門分野の中から自分の関心と適性を考慮し、最低3分野を選択して学ぶ。	1分野を選択し、少人数制の実習科目の中で、より高度で専門的な学修を行う。	卒業制作・課題研究を行い、独自の表現を社会へ発信する力を身につける。	
		デザイン芸術学科	デザイン、美術工芸の歴史と理論、および平面・立体の基礎造形を学ぶ。プロジェクト演習ではグループワークに取り組む。	デザイン領域およびアート領域の理論と演習科目を自由に組み合わせて幅広く学び、自分の専門性を見きわめる。総合プロジェクト演習ではプレゼンテーション技術を身につける。	1分野を選択し、実習科目を通してより専門的に学ぶ。総合プロジェクト実習では企業や地域と連携し、領域横断的な応用力と実践力を身につける。	選択した領域・分野で学んだ専門性と、総合プロジェクト科目で身につけた総合性の両面から、自らのテーマで集大成としての卒業研究に取り組む。	
	産業科学技術学部	経営情報学科	ゼミを中心に大学での学びの基礎を身につけるとともに、各コースの基礎的な知識に触れ、コース選択の指針とする。	それぞれのコースの講義、演習、学外実習などを通して広い視野と深い学びを追求するとともに、専門分野をより深く学びたいコースを絞りこむ。	専門分野の学びを研究に応用するため、希望をもとにゼミ出の配属となり、より専門性の高い講義とゼミでの研究活動を通して知識や技能を応用する力をつける。	卒業研究として、専門分野からさらにテーマを絞った研究活動を実践し、締めくくりとして卒業論文にまとめる。	
	生命科学部	生命科学科	生物や化学に関する基礎的な知識や技能を身につけ、自分の進路の大まかな選択を行い、大学生基礎力を養う。	自分の進路の専門的な知識や技能を深める。また生命倫理や科学者としての心得を養うとともに、社会に必要な能力の基礎を身につける。	後期には研究室配属をおこない、さらに専門性を高め、これまでに学んだ基礎的、専門的な知識や技能を応用し、実践的な力を身につける。	卒業研究および病院実習等の実践的なテーマに取り組み、問題解決力を身につけるとともに、様々な資格取得にも挑戦する。	
		健康科学科	身体の仕組み、機能と役割など健康科学分野の基礎を学び、4年後の夢の実現に向けた学科特別授業も行う。	学んだ基礎的な知識をさらに深め、修得コースを選択・確定し、より専門性の高い講義・実習を行う。	ゼミナールとして、興味のある研究分野の研究室に配属し、研究活動を通してより深く学ぶ。	将来を見据えて現場実習を実施。またゼミナールで得た知識を発展させ、卒業研究を行う。	
		動物生命科	動物医療や生命科学を学ぶうえで基礎となる科目を中心に、専門職として不可欠な倫理や法規についても学ぶ。	動物看護・動物実験の根幹を成す科目を履修し、基礎と実践をつなぐ重要な内容を講義と実習の両方から学ぶ。	講義・実習のいずれも、より実践的に学び、動物臨床や研究の現場で求められる技術と知識を修得する。	さまざまな実践の機会を通じ、「考える力」や「伝える力」、「問題を発見・解決する力」を身につける。	
		生命医科学科	臨床検査医学に関する基礎的な知識、技能および倫理観を修得する。	臨床検査医学に関する専門的な知識、技能および倫理観を修得する。	臨床検査医学に関する実践的な知識、技能および倫理観を修得する。	臨床検査医学に関する諸問題に対し、自ら解決できる力を修得する。	
	危機管理学部	危機管理学科	危機管理学および経営学・経済学の基礎、ならびに情報セキュリティの知識の基礎を身につけるとともに、ゼミナールや概論科目を通じて大学での学びや進路選択の指針とする。	1年次で学んだ基礎知識をさらに深め、より専門性の高い知識と技能を学ぶことにより、広い視野と深い学びを追求する。	より専門性の高い講義や演習・実習を通じて専門分野の学習をさらに深めるとともに、興味ある研究分野の研究室に配属し、研究活動を通じてより深く学ぶ。	卒業研究として、専門的論文の講義を通じて専門分野からさらにテーマを絞った研究活動を実践し、締めくくりとして、卒業論文にまとめる。	
	2. 幅広い教養と豊かな人間性を備えた社会人の養成	全学科共通 ・大学での学びの基礎となる「導入科目」を1年次に配置する。 ・幅広い教養を身につけるために、「文化と芸術」「文化と社会」「生活と科学」を「専攻科目」と並行して学べるよう、すべての年次を対象として配置する。 ・異文化の理解を促進するために、「外国語」を1年次 (または2年次) に配置する。 ・健康的な生活について学ぶために「保健体育」を1年次に配置する。					
	3. 地域社会に貢献できる人材の養成	全学科共通 ・「地域連携・キャリア教育科目」と「くらしき若衆科目」を配置する。					
	4. 芸術と科学に関する創造性豊かな人材の養成	全学科共通 ・教養科目「芸術と科学の協調」と「芸術と科学の協調」推奨科目群を配置する。					